

# 丹波篠山市公民館だより 第42号 四季の森通信

発行元  
丹波篠山市立中央公民館  
丹波篠山市網掛429  
TEL 079-594-1180  
館長 谷掛 昭二  
令和2年9月18日

## Topics =注目の出来事=

### 公民館事業、新型コロナウイルスの感染防止に細心の注意を払いながらスタート!

昨年度末より流行している新型コロナウイルスの影響を受け、公民館事業が延期もしくは中止となり、市民の皆様にはご迷惑をおかけしております。我々公民館としても、悔しい思いが募ります。そんな中、延期しておりました事業を8月より開始しました。手指消毒液の設置、3密の回避、ソーシャルディスタンスの確保、マスクの着用、検温等を徹底し、参加者の皆様に安心して公民館の事業を通して学んでいただけるよう、職員全員で感染予防・感染防止に努めております。皆様の不安を少しでも払拭できることを願い、公民館を運営してまいります。

丹波篠山市立中央公民館長 谷掛 昭二

### 【古文書入門講座 開講!】

受講生23名で、8月3日に初回講座を開講しました。講座は丹波篠山市史編纂にも関わっていただいている、神戸大学学術研究員の松本充弘先生に担当いただきました。

はじめに古文書の初心者の方の心得について話され、その後、天明期の泉村の庄屋文書の「山田家文書」にあった「時疫流行二付心得」当時の疫病対策を記した古文書で講義いただきました。

「時疫には大つぶなる黒大豆ヲ能いりて壺合」云々の記述の文書を現在のコロナ禍と照らし合わせ、受講生は興味深く聞いていました。

当講座は令和3年3月まで、延長して開講します。



↑講座の様子  
当日の古文書→

### 【かぞくdeおいしんぼ クッキング開催!】

8月1日「スイーツ編」  
8月8・9日「そば打ち編」  
8月18日「パティシエ編」を実施しました。

参加した子どもたちの笑顔がキラキラと輝いていました。参加者からは、「夏のお楽しみが少ないので出来て嬉しかった」という声が聞こえました。



### 【郷土味学講座 創造コース開催】

8月11日より、創造コースを皮切りに郷土味学講座が始まりました。初回の創造コースでは、「全国学校給食甲子園優勝メニュー」を夏の食材で再現しました。

遅れてのスタートでしたので、令和3年3月まで開催予定です!



↑学校給食優勝メニュー

### 【公民館事業の今後の開催予定について】

事業実施については、下記の通りです。コロナ対策を行い細心の注意を払いながら実施します。

事業名	開催について(令和2年9月14日現在)	お問い合わせ先
丹波ささやま市民文化講座	通常講座は11月より開催予定 現地学習は中止	城東公民館 TEL 079-556-3171
丹波ささやまおもしろゼミナール	12月より開催予定	
青少年行動力等開発プログラム事業	12月に開催予定	
古文書入門講座	8月より開催中	中央公民館 TEL 079-594-1180
家庭教育支援事業	赤ちゃんがきた!・きょうだい生まれた! 9月より開催(8組限定)	
郷土味学講座	8月より開催中	

高齢者大学につきましては、大変残念ながら今年度は1年間中止とすることになりました。ご了承下さい。

## 川柳

第34回

お題「エール」北澤 稠民 選

### 最優秀句

評価ポイント\*以下(評ボ)

応募数 16名 32句

マスクしてかばんがゆれる一年生

杉 古林 宏之

### 優秀句

また来てね葉立つつばめにエールする

杉 古林 美津子

意地が出るエールと名前連呼され

打坂 坂下 悦治

石段を孫のエールで登り切り

木津 横溝 安子

### 次点

・エールする螢の光八時まで  
・鎌を研ぐシルバリーにエール八十路行く

### 《総評》

コロナの苦しみに、子供たちは必死に立ち向かいました。温かいエールを送ってあげて下さい。最優秀句に人間としての愛しさに触れました。

次号のお題「新」10月20日×切

中央公民館 城東公民館・多紀支所・西紀支所・今田支所まで持参・郵送・FAXまで応募ください。一人二句まででお願いします。

## 一生勉強一生青春

Vol.31

西尾 雅子 さん (宇土)

生涯学習活動にまっしぐら!懸命に励まれている方を“数珠つなぎ方式”でご紹介します。今回登場した方が「エールを送りたい」と思う人を、次回ご紹介します。…次は、あなたかも!?

### 「子育て中のお母さんの力になりたい!お母さんだからと諦めないで欲しい」

アグリステーション丹波ささやま(旧城南保育所)で、城南地区まちづくり協議会や篠山産高の学生ボランティアの助けを借りながら、地域の拠点づくりに奮闘中の雅子さん。自身が、子どもづれの飲食店で辛い体験をしたのがきっかけで、お母さんと子どもに居心地のいい場を提供したいとの思いから、カフェ&雑貨「HOKKORI(ほっこり)」をオープンされました。

丹波篠山で育ちました。仕事は「何を学びたいか」を基準に、金融関係から飲食、アパレル、カフェと変わってきました。調理師、証券外務、ホームヘルパー、ダイビング等の資格を取得しましたが、自分のやりたいことの為に勉強するのは苦になりませんでした。みんな今に繋がっています。

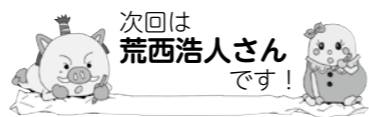
沖縄に子連れで1か月のバックパック旅行を執行したように、行動力は自分でも冴抜けていると思っています。夫からは「ママは宇宙人」と言われるし、「変わっている」と言われるのは褒め言葉と思っています。

保育所だったこの建物に子どもの笑い声を取り戻したい、人が笑ってるのが好き、人と人の繋がりを大切にしたい、という思いが原動力です。壁のペンキ塗りや子供用トイレの設置等、地域の方々に助けてもらいながら、施設づくりをしてきました。素材にこだわったクレープのカフェと、おしゃれて身近な丹波篠山に無い雑貨を扱うお店、私の「ほっこり精神・スタイル」を伝えたいです。



### 【記者より】

この紙面では、書ききれない体験や思いを語っていただきました。これだけエネルギーギッシュに活動されている中で、自身の4人のお子さんとの時間も欠かさない肝っ玉母さんです。ここに来ると雅子さんから元気と癒しがもらえる事、請け合いです。(安)



次回は 荒西浩人さんです!  
次のバトンはこの人に託します!

午前5時、アラームの音に目覚め、一先ず豆を挽き一杯のコーヒーを淹れる事から私の日常が始まる。紫煙をくゆらせながらテレビをつけると、どのチャンネルもコロナの話題か、芸能人の不祥事の話題が流れている。外へ出ると、出会う人出会う人の顔の半分の面積をマスクが覆い、その表情から相手の考えを推理するのに一苦労する。再燃したコロナ禍の影響で、各種のイベントや事業がことごとく中止。

いずれ「中止の判断は正解だね」と思えるということは、今より厳しい状況になってるって証ですよ。だから「やめなきゃよかったね」と後悔できる日が来ることを願うばかりです。なぜか、そんなことばかり考えているもんだから珍しくストレスがたまる。(剛)

編集後記



## 青少年行動力等開発プログラム事業とは…なに？

この事業は、公民館との係わりが少なかった世代を対象に、社会で生活するために必要な行動力などの向上を目指したもので、平成22年に始まり本年度で10年目の節目をむかえます。

参加者は、自らが企画や運営をする過程の中で、楽しさだけでなく、時には苦しみ参加者同士で支えあいながら多くの喜びや気づきを得てきました。また、丹波篠山市への愛郷心を育み、今まで見ていなかった良いところに気づいたり、丹波篠山市での暮らしを考えるきっかけを与えたりしています。今回は、その10年の軌跡を振り返ってみました。

### 平成22年度 「企画チャレンジ隊」

企画力や創造力の育成はもちろん、仲間づくり、思いを伝える表現力とリーダーシップの育成を図る目的でこの事業が誕生しました。

### 平成24年度 「福住まちなみ探訪ツアー」

国選定重要伝統的建造物群保存地区に指定された福住の良いところを見て回るツアーを企画しました。

### 平成26年度 「ささやまSCHOOL～受け継ごう伝統文化～」

篠山鳳鳴高校生を中心に、篠山の伝統や文化を学ぶ機会を企画しました。

### 平成28年度 「ささやまのむかしばなし朗読会」

市内の小学生を対象に、かがり火の灯る神社の境内で、むかしばなしの朗読会を企画・運営しました。

### 平成30年度 「春ピクニック～篠山って…なに？～」

早春の公園で気軽にピクニック気分篠山の良さ等を語り合いました。

### 平成23年度 「My Story in立杭 魅力発見ツアー」

立杭の魅力を求めて、陶芸体験やまちなみ散策、写真コンテストを含むツアーを企画しました。

### 平成25年度 「篠山城下町まちなみ探訪ツアー」

国選定重要伝統的建造物群保存地区に選定されている篠山地区城下町エリアのツアーを企画しました。

### 平成27年度 「篠高フェスタ」

市内の高校生が、自分たちの日頃の活動の主張の場としてステージイベントを実施。出演者探しから、企画、運営までを行いました。

### 平成29年度 「地元基地ささやまプロジェクト」

「地元で若い人が集まる秘密基地みたいな場所が欲しい！」そんな思いで、何をどうすれば実現できるかを語り合いました。

### 令和元年度 「夏映えウォーターゲーム～弾丸は水！？ サバイバル！？～」

「夏映え」をテーマに参加者で水風船を使ったゲームを創造し、行動力の向上を図りました。



高校生当時の古宮寛菜さん

#### ◆青少年行動力等開発プログラムを振り返って

高校2年生の春休みに平成27年度青少年行動力等開発プログラムで、「高校生が地域に元気を与えられるようなイベントをしたい！」と想い、仲間を集めて企画しました。

私はただ、想っていることを伝えただけなのですが、その一言で色々な人が助けてくれて計画がスタート。応援してくれる人がいて結果として形になりました。「自分の想いを伝える」ことで可能性はどこまでも広がるんだと感じた経験でした。今も支えてくださった周りの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

がんばったね！  
高校生のわたし！



現在の古宮寛菜さん

Coming Soon

## 明るい未来が創れる！おいでよいなかの学校

### 令和2年度青少年行動力等開発プログラム事業が始動します!!

令和2年度は、旧大芋小学校にオープンした「泊まれる学校 おくも村」にて、12月12日の開催を予定しています。年の瀬らしくお餅をついたり、しめ縄を作ったりしながら、参加者同士の親睦を図ります。そして、新たにできた「仲間」と未知の食材を使った夕飯をつくりまします。どんな夕飯ができるかは、参加者の皆さんの柔軟な思考次第です。すっかり打ち解けあった後は、みんなで自分やまちの将来について語り合しましょう。もしかするとスペシャルなゲストが乱入するかも!!

お問い合わせ先：丹波篠山市城東公民館 TEL：079-556-3171 担当：松井

## Report = 報告 =

公民館で始まる学びの輪。学びに老若男女は関係ありません。

### 【令和2年度 丹波篠山市成人式実行委員会始動！】



7月17日に、第1回成人式実行委員会が行われました。現在の実行委員は4名。彼らは成人式で新成人が笑顔になるような企画を練っています。しかし、4人という少ない人数では、なかなか良いアイデアが生まれず、第1回目の実行委員会は難航。現在、実行委員会ではアイデアを練りつつ、新しい実行委員になってくれる方を探しています。

成人式実行委員は随時募集しております。共に一度限りの成人式を盛り上げませんか？興味のある方は下記の連絡先までお問い合わせください。

連絡先：丹波篠山市城東公民館  
TEL：079-556-3171【内藤、三輪】

### 第14回 篠山のむかしばなし実物写真館



禅昌寺に残る宝篋印塔



江戸時代のこと。頭が良く、行動力のある白井半左衛門という庄屋が福住にいました。その年は、天候が悪く米ができず、農民は何度も強訴を起こすほどでした。半左衛門は、灌漑と防火を兼ねた水路を掘り、福住の集落に枕木川の水を流そうと、工事を始めました。しかし、大庄屋の荻田三太夫はこれを良しとせず、お上をないがしろにして無断で工事を行ったとして半左衛門のことを藩に訴えました。

その結果、大庄屋をないがしろにするのは藩をないがしろにすることと同じとして、奉行所から死罪を申し渡され享保16年(1731)12月25日に処刑されてしまいます。半左衛門は死にのぞんで「災害のあった時に思い知ったたらエエんや！」と叫んだといわれます。

寛延元年(1748)に福住の町で52軒もの家を焼く大火が起こりました。このときに燃え盛る炎の中を白馬にまたがり走り回る半左衛門の姿を目撃したとする者が大勢あらわれ、大層な騒ぎになりました。その後、福住の禅昌寺に供養塔として宝篋印塔を建立し、今も禅昌寺境内に残っています。

### “新米ママの オンラインサロン”開催

家庭教育支援事業

初めての赤ちゃんを育てている新米お母さんとオンライン(ZOOM)でのおしゃべり会を開きました。

子育てで気になることや赤ちゃんとの遊びをしているかなど、参加者がお互いの子育てを参考にできる時間となりました。

また、健康課の保健師さんや、お母さんが安心して気軽に行ける施設の方にゲストとして参加してもらい、お母さん方は自宅にいながら色々な人と繋がることできて満足げでした。

「コロナのせいで気楽に出かけられない状態ですが、オンラインだと家にいながら、子どものお世話も普段と変わりなくできるので、いいと思います。

コロナが収束したら行けるところも知れて楽しみが増えました。」(参加者感想より)



### 第14回 ささやまあるある博覧会

#### なんじえー、このスイカてげとるにい

『幼いころの夏の記憶を遡る。』

麦わら帽子にランニングシャツ、どちらが裏かかわからないくらい真っ黒に日焼けして、足元はペラペラのビーチサンダル。そんないでたちで野山を駆け廻り、喉が渇くとそこいらの畑のトマトをほおばる。

農家のおいちゃんに見つかると、ゲンコのひとつもいただくけれど「またお前こ！これやるよって、もう来なや！」とゲンコの数以上のトマトをもらう。

夕暮れ間近、家にもどると「どこ行っとったん！」と母の怒鳴り声にドキッとしながらも、視線はタライに浮かんだスイカからはなれない。夕飯を終えると「スイカ冷やしとるで」の母の声が。豚の鼻からでてくる蚊取り線香の煙の香りを嗅ぎながらワクワクしてまわっていると、台所から「なんじえー、このスイカてげとるにい」と悲鳴にも似た母の声が聞こえる。』

最近のお母さん達なら「まあ、このスイカ、中が割れてるわ」とおっしゃるのでしょね。

ここまで書けばお分かりになるでしょう。「てげる」とは「われる」の意味で、スイカに限らず、お皿を割ってしまった時に「えらいこちゃ、おてっしょ(おてしお=お皿)てげてしもたにい」などとも使います。そして、その慰めには「だんない。サラこうたらええやれえ」と言うのです。

「サラ」というのは「皿」のことではなく、「新しいもの」の意味で、また「だんない」とは「気にしなくてもいい」の意味なのです。